



ごあいさつ

東京都知事 小池 百合子

第22回東京都障害者スポーツ大会が、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会と東京都の共催により、開催できますことを大変嬉しく思います。

本大会は「身体」「知的」「精神」の3つの部門で競技を行う、都内最大規模の障害者スポーツの祭典であり、障害のある人がスポーツを通じて自らの体力の維持増進、社会への参加及び相互交流の促進を図ることで、その自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的とされております。

選手の皆様が、本大会への出場を契機として活躍の場を広げ、また、他の選手との交流を通じて、競技生活がより豊かなものになることを願っております。コロナ禍で、活動に様々な制約があったかと思いますが、日頃の練習の成果を発揮され、10月の第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」への出場を目指して頑張っていたいただきたいと思います。

さて、東京都は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の今夏の開催に向け、組織委員会、国、IOC、IPC等の関係機関と連携し、新型コロナウイルス対策に万全を期しながら、着実に準備を進めております。

大会を通じて、障害者スポーツの魅力を多くの人に伝えるとともに、大会後も、スポーツ施設のバリアフリー化や身近な地域でスポーツをする場の拡大など、スポーツに親しむ環境の整備に向け、積極的に取り組んでまいります。そして、あらゆる面でのバリアを取り除き、多様性と包摂性にあふれるまちを築き上げてまいります。引き続き皆様の御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会の成功が障害者スポーツの一層の発展につながることを祈念し、挨拶いたします。



ご挨拶

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
会長 白石 弥生子

第22回東京都障害者スポーツ大会が関係者の皆様のご協力とご理解のもとで開催されますことに対しまして、主催者の一人として心から感謝申し上げます。

本大会は、10月に開催されます第21回全国障害者スポーツ大会「三重とわか大会」への派遣選手選考会を兼ねており、毎年多数の選手が参加する都内最大の障害者スポーツ大会です。また、本大会から、全国大会の正式競技以外の競技をオープン競技として実施することになりました。関係者の皆様に対しまして重ねて御礼申し上げます。

さて、昨年度は新型コロナウイルスの影響により東京都障害者スポーツ大会は「スポーツの集い」を除き、全ての競技が中止となってしまいました。参加を予定していた選手の皆様の悔しさを思うと残念でなりません。

今もなお、様々な活動が制限され、選手の皆様におかれましては十分なトレーニングができない状況にあるかと思いますが、持てる力を存分に発揮し、競技されることを期待しております。

スポーツは、健康の維持・増進や人生に潤いを与える世界共通の人類の文化です。当協会は、東京都内の障害者スポーツ振興の中核組織として、障害のある人が「いつでも どこでも いつまでも ～すすめます！スポーツをもっと身近に～」をスローガンに、今日まで障害者スポーツの普及・振興に邁進してまいりました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に障害者スポーツへの関心が高まりましたが、それを一過性のものにしたために、東京都と一体となって引き続き様々な取組を行ってまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、本大会のために多大なご支援をくださいました大勢の方々に対しまして心より感謝申し上げますとともに、重ねて選手の皆様のご健闘を祈念しまして挨拶といたします。



ごあいさつ

特別区長会会長

江東区長 山崎孝明

第22回東京都障害者スポーツ大会の開催を心からお慶び申し上げます。

この大会は、5千名を超える選手が参加する、国内最大規模を誇る「障がい者スポーツの祭典」であります。今回で第22回目を迎える本大会は、さまざまな障がいを乗り越えて活躍されている選手だけでなく、ボランティアの皆さんも含めた多くの関係者が集い、年々大きな輪となっております。

本大会の開会式が東京を代表するスポーツ大会として伝統のある「都民体育大会」と合同で開催されることは、障がいのある人とない人がお互いのスポーツ競技への理解をより一層深めることにつながり、すべての人がスポーツのもとで、ひとつの大輪となり発展していく象徴だと思っております。

さて、今年はいよいよオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。特別区長会では23区一丸となって大会の成功に向け様々な活動を行っているところです。

今後、パラリンピアン育成や障がい者スポーツの環境づくり、一般の障がい者スポーツのさらなる普及促進のために取り組むとともに、障がいについての理解を推進するために、こころのバリアフリーについても全力をあげて取り組んでまいります。

特別区は今後とも、障がいのある方々が、住みなれた地域で安心して末永く質の高い生活を送っていただけるように、障がい者スポーツの振興を含めた障がい者施策の充実に努め、誰もが幸せを実感できる共生の地域社会の実現を目指してまいります。

どうか皆様もスポーツを通して友情と交流を育まれ、連帯と支え合いの輪を地域に広げていただくことをご期待申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、様々な感染予防対策を行いながら、可能な限り競技を実施してこられた、選手、スタッフの皆さん、そして諸団体、ボランティアの皆さんのご努力とご協力に深く敬意を表すとともに、今年度の大会の成功と皆さんのご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



第22回東京都障害者スポーツ大会開催を祝して

東京都市長会会長

立川市長 清水 庄 平

「第22回東京都障害者スポーツ大会」が多くの皆様のご参加により、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本大会は、選手の皆様が、日頃積み重ねてきた練習の成果を発揮するとともに、競技を通じて多くの人々と交流の輪を広げる大きな機会であります。

例年、ハンディキャップをお持ちの多くの選手やボランティアの方々が参加し、国内最大規模の大会として開催できますのも、偏に関係者の皆様の熱い想いと、それに応える選手の皆様との交流の輪が大きな礎となっていることにほかなりません。

大会では、ひたむきに努力を重ね困難や障害を克服する選手の方々の姿が、多くの人々の心を揺さぶり、障害者スポーツの魅力をあますことなく伝えてくれるものと思います。

新型コロナウイルス感染症は、終息を見通せない状況ではありますが、3月25日には福島県で聖火リレーがスタートしました。一筋の光が暗闇を照らす大きな光となることを願ってやみません。コロナ禍を乗り越え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されること、そして今回の「東京都障害者スポーツ大会」に選手や役員として参加されている皆様が、東京2020パラリンピック競技大会でも活躍され、障害者スポーツの普及に一層拍車がかかることを、心より願っております。

東京都市長会といたしましても、活力あふれる共生社会の実現に向けて、障害者福祉のより一層の増進に努めるとともに、障害がある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりに向けて、全力で取り組んで参ります。

結びに、本大会を運営されるスタッフ、ボランティアの皆様のご尽力に対し、深く敬意を表しますとともに、選手の皆様のご活躍と本大会の成功を心からお祈りしてご挨拶とさせていただきます。



ご 挨拶

東京都町村会会長

瑞穂町長 杉 浦 裕 之

第22回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。

さて、アスリートの皆さん、都民の皆さん、私たち町村の行政に携わる町村長を始め全ての国民が、心待ちしていた東京2020オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により残念ながら1年間延期となり、本年（令和3年）7月23日からオリンピック競技大会が、8月24日からパラリンピック競技大会がそれぞれ開催されることになりました。

これまで、日々、懸命に努力を積み重ねてきたパラリンピアンの方は、東京大会という大舞台での活躍に胸をふくらませておられると思います。

私たちは、この二つの大会を人類の叡智を結集して新型コロナウイルス感染のリバウンドを克服し、盛大に開催し、成功させなければなりません。

ところで、東日本大震災と原子力発電所事故から10年の歳月が経過いたしました。被災された多くの皆様は、未だに住み慣れた故郷を遠く離れた避難先で、また、平成28年熊本地震など多くの自然災害で被災された皆様も仮設住宅などで不自由な生活を強いられております。

この間、障害者スポーツに取り組む多くのアスリートの皆さんのひたむきにスポーツに打ち込む姿は、こうした被災された皆様に大きな勇気を与え、とともに心の支えとなっております。今後とも、私たちは、東日本大震災などの被災体験を風化させることなく、皆さんと一緒に被災地の復興を応援し、一日も早く被災前の生活に戻ることができるよう支援してまいります。

第22回東京都障害者スポーツ大会は、第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」の代表選手選考会を兼ねて開催されますが、障害者が自らの障害を克服して活躍する姿を通じて、多くの皆さんに共感を与え、ともに、勇気と感動を与え、障害者スポーツの魅力を生多摩地域や島しょ地域を含む都内全域に伝えることができる大会になるものと確信いたしております。

東京都町村会は、今後も障害のある方が、住み慣れた地域で安心して生活できる地域社会の構築のため、障害者施策の充実に努め、誰もが幸せを実感できる共生社会の実現に取り組んでまいります。

最後に、本大会の開催にご尽力いただいた多くの関係者やボランティアの方々に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功と選手の皆さんの益々のご健勝、ご活躍を心からお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。



第22回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

公益社団法人東京都身体障害者団体連合会
会長 小西 慶一

昨年、延期になった東京オリンピック・パラリンピック開催まで、120日を切った本年「第22回東京都障害者スポーツ大会」が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

開・閉会式、陸上競技等の舞台となる、オリンピックスタジアム・国立競技場での開催を期待しております。

パラリンピック競技大会は、22競技、540種目が21会場で実施されますが、なんとといっても世界初の2度目のパラリンピック開催になります。

選手の皆様も私達も、その日を日々待ち遠しく、また、楽しみでもあります。

そして、東日本大震災から10年が経ちましたが、被災地の復興は今だ思うように進んでいません。今まで、当たり前だった色々な状況から一転した現状を受け入れることは、なかなか難しいかもしれませんが、自分の好きなスポーツが出来る状況や、仲間との思い等、被災地の皆様への思いを胸に、是非、選手の皆様は競技に臨んでください。

今年の第21回全国障害者スポーツ大会は、三重県での開催です。全国大会への出場を目指し、その先にあるものを目指して、競技に臨んでください。

年齢の隔たりなく、障害の有無も問わない、誰もがスポーツを楽しめる世の中を目指して、日本のレガシーを残すべく頑張ってください。

東京都障害者総合スポーツセンター並びに東京都多摩障害者スポーツセンターも利用しやすくなっておりますので、より多くの方々にスポーツを通じて、ふれあいを広げてもらいたいと思います。

最後に、新型コロナウイルス感染症への対策をとり、選手並びに関係者の皆様の安全に配慮した大会開催の準備などに、ご尽力をいただきました大会関係者とボランティアの皆様に感謝申し上げますとともに、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の益々のご発展を祈念し、挨拶いたします。



第22回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
理事長 佐々木 桃子

第22回東京都障害者スポーツ大会が多くの関係者の皆様のご支援、ご協力のもと、開催されることを心から感謝申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染により、大会を中止せざるをえず、大会参加を楽しみにしていた選手の皆様には残念なことであったと思います。まだ、コロナウイルスの収束にいたってはいませんが、多くの関係者の皆様のご尽力のもと、この一年で私たちが学んだ感染防止策を徹底し、この大会が開催できることを心から嬉しく思っています。

また、オリンピック・パラリンピックの開催を控え、今年はスポーツの力、そして、頑張っている人たちの姿に感動と勇気をいただき、暗くなりがちな昨今、多くの人たちが、自分たちも前を向いて頑張ろうという気持ちになるのではないのでしょうか。

選手の皆さんは、この大会に向け、日ごろより、体を鍛え、練習に励んでこられたことと思います。この大会は、全国大会の選考会も兼ねていますが、これも残念なことに台風やコロナ禍ということで二年続けて中止となっています。

でも、この大会を目指して皆さんが日ごろから努力していることは多くの人が知っています。

大会当日は、緊張することもあると思いますが、精一杯、ご自分の力を出し、そして楽しんでくださることと期待しています。

今回の大会は、様々な感染防止策を講じての開催であります。

大会関係者の皆様には、大変ご努力いただきましたことに敬意を表すとともに、いつもご支援くださっている多くのボランティアの皆様にも心から感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



第22回東京都障害者スポーツ大会

ライオンズクラブ国際協会330-A地区
ガバナー 進藤 義夫

第22回東京都障害者スポーツ大会が、多くの参加者のもと盛大に開催されますことをライオンズ国際協会330-A地区を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。また、昨今の新型コロナウイルス流行で厳しい情勢の中、改めまして本大会を支えておられる多くの関係者の皆様に深く敬意を表します。

東京都障害者スポーツ大会には、これまで第1回大会より20年以上に渡り、ライオンズクラブとして様々な形で支援をさせていただいています。各クラブとしての競技への協賛をはじめ、330-A地区全体としては特別協賛をしており、特に駒沢オリンピック公園総合運動陸上競技場では、直接選手の方々に応援、表彰する機会をいただいています。選手の皆様が日ごろの練習成果を発揮される姿を応援し、またご家族やボランティアの方々と一緒に表彰を盛り上げることは、私たちにとって大変誇らしい活動となっております。そして、2年ぶりに選手の皆様が競技に真摯に取り組む姿を拝見する機会を頂戴することに、心よりお喜び申し上げます。

いよいよ今年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、ライオンズクラブとして、特にパラリンピックに出場される可能性がある選手への支援も行っているところです。本大会は、10月に三重県で開催されます第21回全国障害者スポーツ大会への派遣選考会も兼ねていると伺っています。

また、この大会を通じて、ライオンズクラブが永年のテーマとしております「障害のある方に愛の明かりを！！」を合言葉に、身体障がい者や知的障がい者、さらには精神障がい者や発達障がい者など障害の区別なく、障がいのある方々がますます社会進出し、国民の障がいがある方への理解が深まることを信じております。

結びにあたり、選手の皆様並びにそのご家族、介護者及びボランティアの皆様にご感謝申し上げます。本日参加される選手の皆様のご活躍、そして公益社団法人東京都障害者スポーツ協会のさらなるご発展を祈念し、激励の言葉といたします。



ごあいさつ

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
理事長 並木 一夫

第22回東京都障害者スポーツ大会が、多くの関係者の方々の御協力を得て開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本大会は、本年10月に三重県で開催が予定されている第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」への東京都代表選手選考会を兼ねた都内最大規模の障害者スポーツの祭典で、全国大会出場という大きな目標につながる大会でもあります。また、当事業団が管理運営しております東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場でも競技が実施されます。皆様が練習の成果を遺憾なく発揮され、熱戦が繰り広げられることを心から楽しみにしています。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする様々なスポーツイベントが延期・中止となり、人と人との交流や様々な社会活動が制限されました。一方で、人や社会とつながることの大切さ、地域・経済の活性化の重要性について改めて考える機会となり、スポーツのチカラがその一端を担っていたことを再認識いたしました。1日でも早く新型コロナウイルスの感染拡大が収束するとともに、日本そして世界中のスポーツが再び活気づき、人々が心からスポーツを楽しむことができる明るい社会が訪れることを切に願っております。また、本大会が障害者スポーツの競技力向上、理解・普及促進の契機となり、ひいては東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功につながることを期待しております。

事業団は、本大会の成功はもとより、「スポーツフィールド・東京」の実現に向けた様々な取組に積極的に参画して参ります。その取組のひとつとして、都立の特別支援学校を障害者スポーツの拠点として活用する「都立特別支援学校活用促進事業」を、今年度は規模を拡充して実施いたします。都民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、これまで以上に障害者スポーツの振興に寄与して参りたいと考えております。

最後になりますが、公益財団法人東京都障害者スポーツ協会並びに本大会実行委員会の皆様方の御努力に敬意を表しますとともに、大会の成功と選手の皆さんの御健闘をお祈り申し上げます。



ごあいさつ

一般財団法人 東京都弘済会
理事長 細井 優

第22回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、この大会は、障害のある人がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会参加と相互交流の促進、並びに都民の障害者に対する理解の増進を図ることで、障害者の自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的として開催されています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日常生活や社会的活動などに厳しい制約を受け、障害者の皆さんを対象とするスポーツ大会をはじめ各種スポーツ競技会も中止となりました。

これにより、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期、国内の大会も、昨年10月に予定されていた「第20回全国障害者スポーツ大会（もゆる感動鹿児島大会）」も延期となり、「第21回東京都障害者スポーツ大会」も、その殆どが中止となりました。選手ご本人はじめ、関係者の皆さんの日頃のご努力を思いますと、まことに残念でなりません。

現在、新型コロナウイルス感染症の防止のため、国、自治体、社会全体を挙げて取り組んでいるところでありますが、困難な事態を克服して、安心してスポーツに興じることのできる平穏で安定的な状況になり、オリンピック・パラリンピック大会をはじめ各種競技会が無事開催されるよう心から願っています。

最後に、本大会の運営にあたるスタッフの方々、関係団体及びボランティアの皆さまのご努力に敬意を表するとともに、大会の無事開催とアスリートの皆さまのご健闘を心より祈念しまして、ご挨拶といたします。



ご挨拶

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
会長 木村 恵 司

第22回東京都障害者スポーツ大会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

昨年以来、全国で新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられる中、これまでの開催方法を見直し、今回の大会が安全、安心に開催されますことへの関係者のご尽力に感謝申し上げます。こうして大会を開催できることは、スポーツを愛する都民を大いに勇気づけるものです。同時に、一人ひとりのアスリートが、日々、大会に向けて自己研鑽を積み重ねていることが、これからの障害者スポーツの興隆に寄与することを期待するところです。

今、感染症による災害が長引き、都民生活は大きく制限され、生活に困窮される方々も増えております。私ども東京都社会福祉協議会では、生活支援のための特例貸付に関わっているところですが、こうした困難な時期にあつてこそ、みなさまの躍動する姿が、多くの都民を奮い立たせ、前向きに生き、暮らしに希望を持つことにつながるものと信じています。

本会では、現在、一人ひとりの都民が、その持ちうる力を寄せ合い、安心して地域社会の中で暮らすことができるような「地域共生社会」を目指した取り組みを進めているところです。そのためには、都民、福祉事業者、自治体など、多くの関係者が手を携え、協力し合っていくことが求められており、その取組みの中で、障害のある方々の社会参加とスポーツ活動を支援していく所存です。

最後に、あらためて第22回東京都障害者スポーツ大会のご成功を祈念いたしますとともに、参加される選手や大会の運営に関わる関係者、また、東京都障害者スポーツ協会のみなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。